

ようこそ、私の研究室へ

橋本芳宏・浜口孝司(社会工学科・経営システム分野)研究室

名工大で活躍されている先生方の研究室を、リレー形式で皆様にご紹介しています。第13回目は、橋本芳宏教授の研究室におじゃまいたします。

残り少ない大学教官生活を顧みて

この会報への寄稿を求められた際には、研究紹介を書くつもりであったが、昨年12月還暦を迎え、大学教官として考えていたことを紹介してもいいかなと考えた。

1. 研究を通して学ぶことこそ大学教育

昔から、教師面するやつに嫌悪感を感じていたのに、大学教官になったのは、教官自身がまだわからないことを問題設定して、学生と一緒に取り組むのが大学教官と感じたからである。幸運にも、心底、尊敬できる複数の恩師に出会い、研究と教育という面について考えさせられた。自分が恩師のようになれるとは思えなかったが、近づこうという気にはなれた。

2. 人間、普通と思ったら努力と感じない

研究室運営で常に気にしてきたのは「研究室の普通」である。これまで33年間、浮き沈みがあるが、私自身の取り組む姿勢が大いに反映すると感じている。このところ、他大学や企業等から訪れる方々が、研究室の学生はなんて優秀なんだと驚きすら示してくれる。それだけ時間をかけているからで、残業なし、データ持ち出し禁止の社会人より、ずっと頑張っているとこたえているが、学生自身が、先輩の姿をみて、高いレベルの「当然の努力」をつづける環境をつくってくれているおかげである。何を習うよりも、好奇心、向上心をもって物事に取り込めることが重要な素養であり、そんな学生が集まってきていることに感謝している。

3. がたがた言わずに、まずやってみる

研究は難しくても当然。やってみたら、意外と簡単にできる。あるいは、やったからこそ、問題意識が鮮明になってくる。現在、制御系のサイバーセキュリティ向上に向けたいくつかの取り組みを推進している。制御は学生時代からの専門であるが、サイバーセキュリティは全く門外漢であった。ほとんどの制御、安全の研究者は、サイバー攻撃を原因とする安全の問題に取り組む気配がなく、セキュリティ研究のメンバーも、防御を頑強にする技術には関心があっても、攻撃の結果、発生する深刻なアクシデントにまで、関心を広げようとはしないという状況である。我々は、サイバー攻撃は所詮、情報系しか操作できず、物理的変化を起こすのは、コントローラを通じてしかありえないという観点のもと、守りたいものを基準に考えれば、地に足ついた議論ができると主張し、研究を進めてきた。

他に研究者がいなくても、経産省のCSSCの立ち上げ、内閣府のSIP、IPAのICS-CoEなどのプロジェクトで、名工大社会工学科経営システム分野の3研究室(越島研、渡辺研、橋本研)が重要な役割を担っている。また、「つるまいプロジェクト」と名付けて有力なセキュリティベンダや計装ベンダ、東大セキュリティチームなどが各社の最新のツールをわれわれの実験装置に相乗りさせ、有力ハッカーが海外からもペネトレーションテストするという企画を進めている。

形が見えると、人が集まってくる。集まってくると、新たなアイデアがでてくる。これらを推進できるのも、時間を忘れて取り組んでくれる学生のおかげである。研究内容の一端は、<http://www.manage.nitech.ac.jp/Security/>で覗いていただける。



橋本 芳宏



今後の行事予定

平成30年度
総会・特別講演会

6月1日(金)

(総会
15:20~16:00
特別講演会
16:30~17:50)

研究協力会助成研究会
随時

研究協力会事務局より

今年の冬は記録的な降雪で、大変難渋された地区の方々がおいでになり、未だに除雪に苦勞されていると聞きます。自然の力とは言え、人智で何とか減災に向けた研究が進まないものかと思えます。融雪研究も盛んにされていますが、大量の雪害を減らす技術開発がもっと進んで欲しいものです。一方、降雪の被害が少なかった太平洋岸では、いわゆる四季折々の季節感を感じながら春の到来を待ち焦がれています。

各企業様には3-4月と言った多忙期に社運をかけた事業運営に奔走されているかと存じます、益々の隆盛をお祈り申し上げます。

〈お問合せ先〉

名古屋工業大学研究協力会 事務局

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

名古屋工業大学 18号館3階

電話&Fax.: 052-735-5538

E-mail: kyoryoku-pal@adm.nitech.ac.jp

(ご担当者や連絡先が変更になった場合は、ご一報下さい。)

*研究協力会ホームページURL

<http://partner.web.nitech.ac.jp/>

平成30年3月吉日発行